

■コメント

1. ヘルパンギーナ

定点当たり4.33人と、前週と比べて約2倍に増加しました。

ヘルパンギーナは、発熱と口の中の水疱を特徴とするウイルス性の疾患で、乳幼児を中心に夏に流行します。

手洗い・うがいの励行を心がけるなど感染予防対策を徹底しましょう。

2. 手足口病

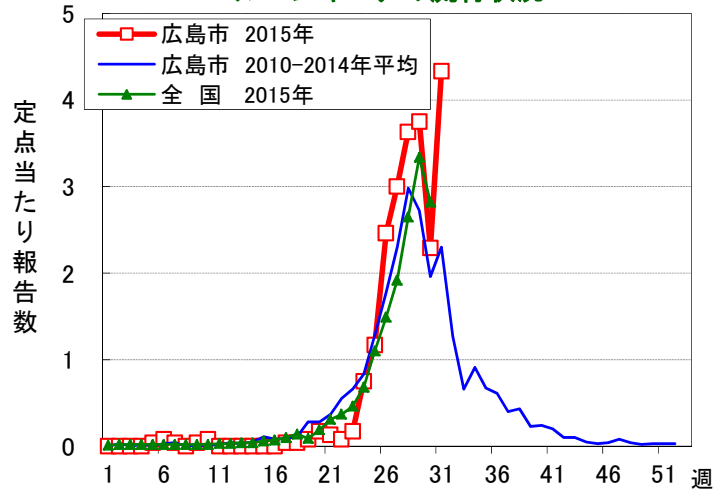
定点当たり4.88人と、前週と比べてやや増加しました。

体調管理に注意するとともに、引き続き手洗いなどの感染予防を心がけましょう。

3. レジオネラ症

2件の報告があり、今年の累計は10件となりました。(次頁参照)

ヘルパンギーナの流行状況



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年(注)	発生記号
小児科	インフルエンザ	-	-	0.01		小児科	流行性耳下腺炎	57	2.38	0.76	▲
	咽頭結膜熱	13	0.54	0.58	◀		RSウイルス感染症	1	0.04	0.13	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	47	1.96	0.97	◀		急性出血性結膜炎	-	-	0.03	
	感染性胃腸炎	115	4.79	3.31	◀		流行性角結膜炎	13	1.63	1.20	
	水痘	6	0.25	0.72			細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	117	4.88	3.08	▲		無菌性髄膜炎	-	-	0.23	
	伝染性紅斑	15	0.63	0.21	▶		マイコプラズマ肺炎	4	0.57	0.26	
	突発性発しん	13	0.54	0.61			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	百日咳	1	0.04	0.05			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	104	4.33	2.30	▲						

急増減	▲	▼	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	▲	▼	前週と比較しておおむね1:1.5～2の増減
微増減	▲	▼	前週と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減
横ばい	▶	◀	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	4	86	男性(80歳代)・1人、女性(80歳代)・2人、女性(90歳代)・1人
4	レジオネラ症	2	10	男性(50歳代)・1人、女性(60歳代)・1人

■定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

		インフル エンザ	咽頭結 膜熱	A群溶 血性レ ンサ	感染性 胃腸炎	水痘	手足口 病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパ ンギー ナ	流行性 耳下腺 炎	RSウイル ス感 染症	急性出 血性結 膜炎	流行性 角結膜 炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズ マ肺 炎	クラミ ジア肺 炎	(ロタ ウイル ス)	感染性 胃腸炎
報告数	第27週	-	14	60	138	4	116	6	16	-	72	43	-	-	6	-	-	-	-	1	1
	第28週	-	8	66	148	5	120	14	10	1	87	41	-	1	2	-	-	1	-	1	1
	第29週	-	9	49	125	3	117	6	11	1	90	46	2	3	12	-	-	2	-	1	1
	第30週	-	15	62	102	13	105	14	12	1	55	35	-	-	14	-	2	1	-	-	-
	第31週	-	13	47	115	6	117	15	13	1	104	57	1	-	13	-	-	4	-	-	-
定点 当たり	第27週	-	0.58	2.50	5.75	0.17	4.83	0.25	0.67	-	3.00	1.79	-	-	0.75	-	-	-	-	0.14	0.14
	第28週	-	0.33	2.75	6.17	0.21	5.00	0.58	0.42	0.04	3.63	1.71	-	0.13	0.25	-	-	0.14	-	0.14	0.14
	第29週	-	0.38	2.04	5.21	0.13	4.88	0.25	0.46	0.04	3.75	1.92	0.08	0.38	1.50	-	-	0.29	-	0.14	0.14
	第30週	-	0.63	2.58	4.25	0.54	4.38	0.58	0.50	0.04	2.29	1.46	-	-	1.75	-	0.29	0.14	-	-	-
	第31週	-	0.54	1.96	4.79	0.25	4.88	0.63	0.54	0.04	4.33	2.38	0.04	-	1.63	-	-	0.57	-	-	-
全国	第29週	0.10	0.56	2.48	4.40	0.42	10.16	1.16	0.59	0.02	3.34	0.56	0.16	0.01	0.75	0.02	0.06	0.35	0.01	0.05	0.05
	第30週	0.08	0.46	1.73	3.42	0.34	9.38	0.79	0.55	0.02	2.82	0.52	0.18	0.01	0.84	0.03	0.08	0.33	0.01	0.02	0.02

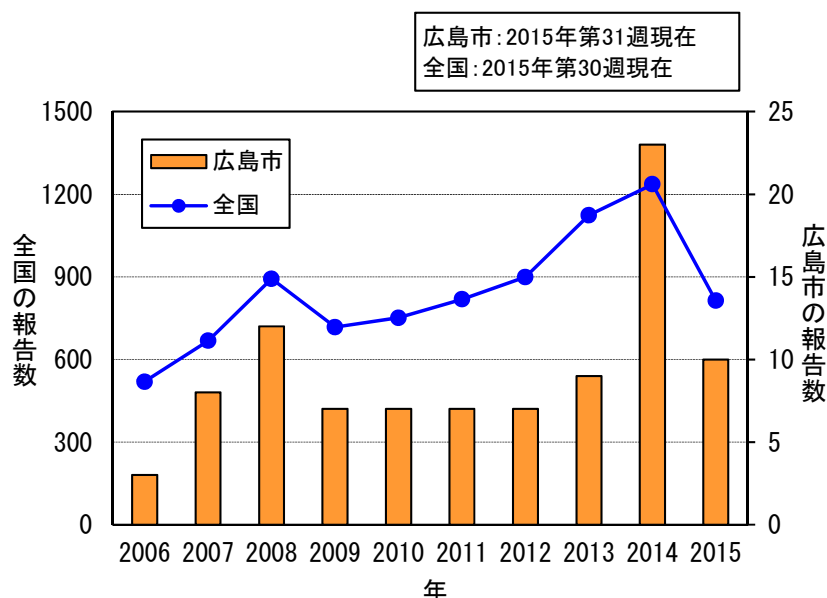
■新たに判明した病原体検出状況

(検査:広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
川崎病	発熱(39.0) 紅斑 上気道炎 肝機能障害 リンパ節腫脹	1	女	2015/06/19	咽頭拭い液	パラインフルエンザウイルス3型 ヒトボカウイルス
その他の呼吸器疾患	発熱(38.6) 気管支炎	0	男	2015/06/18	咽頭拭い液	パラインフルエンザウイルス3型
その他の呼吸器疾患	発熱(39.7) 上気道炎 気管支炎	0	男	2015/06/18	咽頭拭い液	ライノウイルス パラインフルエンザウイルス3型
その他の呼吸器疾患	発熱(38.1) 気管支炎	0	女	2015/06/15	咽頭拭い液	RSウイルス

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

【参考】広島市及び全国におけるレジオネラ症の年間報告数の推移



レジオネラ症はレジオネラ属菌による感染症で、劇症型の肺炎と一過性のポンティアック熱があります。レジオネラ属菌に汚染されたエアロゾル(細かい水のしぶき)を吸入することによって発症します。人から人への感染はありません。レジオネラ肺炎は2～10日の潜伏期間の後、咳、38℃以上の高熱、悪寒、胸痛、呼吸困難が出現し、胸部X線で急速進行性の肺炎の所見が見られます。

レジオネラ属菌は、もともと土壌や水環境にふつうに存在する菌です。

感染予防のためには、不衛生な場所でのエアロゾル吸入を避けるとともに、感染源となる可能性のある設備(循環式浴槽・ジャグジー・加湿器・冷却塔など)の衛生管理を適切に行い、レジオネラ属菌の増殖を防ぐことが重要です。

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。

URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp

2015年第31週(7月27日～8月2日)